

不況の中で、商店街の空き店舗が目立ち始めております。空き店舗が何件も続いてシャッターが下りるようになると、その商店街は一気に勢いを失くして客足も遠くなってしまいます。空き店舗は商店街にとっては一種の癌であります。ですから早期発見、早期の治療をする必要があります。そこで、商店街への提案であります。①先ず空き店舗を安心して貸借をできる方法として、市・商店街（会議所）・貸家組合等で作った組織で借り上げて転貸また斡旋をする②転貸は種別区分して料金も種別制とする

種別とは、（イ）純然たる商業用に使用する

（ロ）市内の特産物を展示・即売する

（ハ）市内の学校、文化人、高齢者、障害者、公民館等の作品を展示・即売する

（ニ）町内のコミュニケーション、サービスに使用する

（ホ）その他

があると思います。これらの対策は、ただ単に商店街の活性化のためだけではありません。商店街がさびれますと商業地の地価も下落し、さらに周辺の市街地の地価も併せて下落します。こうしたことは隣接する木更津市を見ればよくわかると思います。

空き店舗対策には、資産価値の喪失を防ぐという大変重要な役目があります。

すなわち、空き店舗対策は一商店街だけでなく、地域全体として取り組むべき課題であります。

また、空き店舗の活用として、コミュニティサービスの場所としての位置づけも大切であり、その活用は女性や高齢者の方々に期待したいと思います。

これは単に、高齢者対策としてではなく、長年にわたり地元で生活してきた方々の知恵、伝承すべき事柄を受け継ぐ場所としての役割、そしてまだまだ若く元気がある方達を活用する場として考えて頂きたいものです。